

小児鈍的肝損傷および脾損傷の自然経過と診療パターンの検討：後ろ向き観察研究

◆研究の目的と概要◆

小児の鈍的肝損傷および脾損傷では非手術療法が選択されることが一般的となっています。一方、非手術療法を行った症例では仮性動脈瘤が形成されることがあり、破裂すれば致命的となります。しかし、仮性動脈瘤の発生頻度や自然経過については未だ不明なところが多いです。また、諸外国と比較して日本では小児の鈍的肝脾損傷に対してCT検査やインターベンショナル・ラジオロジーによる血管内治療が施行される頻度が高いですが、その適応については明確にされていません。そこで、鈍的肝損傷および脾損傷で入院された患者さんの情報をもとに、損傷の自然経過とどういった治療が適切なのか研究を行います。

◆対象となる患者さん◆

2008年1月から、2019年12月までの間に、鈍的肝損傷および脾損傷で当院に入院していた16歳以下の方。

◆研究に使用される情報◆

入院当時のカルテから年齢や性別、受傷機転や損傷の程度、行われた治療、転帰等の情報を得ます。

◆研究方法◆

上記カルテからの情報を、患者さんの氏名などがわからないようにしたうえで、下記機関に対してデータセンターに登録し提供します。

◆主な共同研究機関及び研究責任者◆

沖縄県立中部病院 桂 守弘 医師が主体となって実施しており、全国70施設以上が参加しています。

主体のホームページ：<https://chubuweb.hosp.pref.okinawa.jp/rinshou/koukai/>

日本外傷学会ホームページ：<http://www.jast-hp.org/syourai/index6.html>

- 
- \* 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は利用しません。
  - \* 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承いただけない場合、以下の問い合わせ先までメールでご連絡ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院  
救急科 研究責任者 松七五三 晋

E-mail: kenkyu★kchnet.or.jp (臨床研究センター)

(★を@に変換して使用してください)

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって「社会的に重要性が高い研究である」等の特段の理由が認められ、実施についての承認が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。）
- 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- 研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明